

第145回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会プログラム

日時：2018年2月17日（土）13:00～18:00

場所：東京大学弥生講堂 一条ホール

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

交通案内：地下鉄；東京メトロ東大前駅(南北線)徒歩1分

東京メトロ根津駅(千代田線)徒歩8分

都バス；御茶ノ水駅(JR中央線、総武線)より茶51駒込駅南口

または東43荒川土手操車所前行 東大(農学部バス停)下車徒歩1分

参加費：1,000円(会員、非会員問わず)

例会長：長村 登紀子(東京大学医科学研究所附属病院 セルフプロセッシング・輸血部)

テーマ：輸血・細胞治療における品質・安全性の向上に向けて

I 一般演題 座長：川俣豊隆(東京大学医科学研究所附属病院)・上條亜紀(横浜市立大学附属病院)

1. 当院における重症頭部外傷の輸血実績

西村 滋子 他(東京都立墨東病院 輸血科)

2. 当院におけるPlerixafor(モゾビル®)使用症例の検討

川俣 豊隆 他(東京大学医科学研究所附属病院血液腫瘍内科、セルフプロセッシング・輸血部)

3. 酵素法による不規則抗体検査が有用であった症例

芦川 茉帆 他(東京都立多摩総合医療センター検査科)

4. 末梢血幹細胞が採取困難であった症例に対するplerixaforの使用経験

植松 正将(埼玉医科大学総合医療センター 輸血部)

5. 都内の診療所における輸血状況調査結果について

小林一司(東京都福祉保健局 保健政策部疾病対策課)

6. 当院における自己血貯血・輸血の現状

山崎理絵 他(慶應義塾大学病院 輸血・細胞療法センター)

7. ドナーアフエレーシスと分割血小板採取の取り組み

三浦靖志 他(東京都赤十字血液センター)

8. 細胞製品における免疫学的品質試験の数値化による適合基準判定

高橋敦子 他(東京大学医科学研究所附属病院 セルフプロセッシング・輸血部)

II 特別講演 座長：岡崎 仁(東京大学医学部附属病院 輸血部)

「ヒト赤血球細胞株の樹立～臨床検査への応用と人工赤血球作製の可能性～」

演者：栗田 良先生(日本赤十字社中央研究所)

シンポジウム 座長：長村 登紀子

(東京大学医科学研究所附属病院 セルフプロセッシング・輸血部)

「輸血・細胞治療における品質管理と安全性確保に向けて」

1: 「輸血用血液製剤の遡及調査について」

演者 日本赤十字社血液センター 血液事業本部技術部安全管理課 三輪泉先生

2: 「再生医療等製品の品質管理について」(PMDA)

演者 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 再生医療製品等審査部 内田 寛邦先生

3: 「特定細胞加工物における品質試験について」

演者 東京医科歯科大学 小児科 森尾友宏先生

ワークショップ 座長：牧野 茂義(虎ノ門病院 輸血部)

一色 裕美(東京大学医科学研究所附属病院)

「輸血の安全性確保に向けて～実施、副作用とその対策～」

1. 検査室から見た輸血の実施体制、副作用管理体制について

奥田 誠(東邦大学医療センター大森病院 輸血部)

2. 輸血後感染症検査実施状況抽出機能について

伊藤 道博(千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部)

3. 安全な輸血療法のための看護師の取り組み

一色 裕美(東京大学医科学研究所附属病院 看護部)